

靴磨き修行

帯広市医師会
帯広第一病院

やまなみ ひであき
山並 秀章

あまりおしゃれに興味がない私だが、以前から自分で靴磨きだけはしていた。ただ、それほど熱心だったわけでもなく、ぼろ切れやもらい物の安いタオルとそこらの靴屋で売っている靴クリームを使っての手入れだった。磨いても、なかなかピカピカにはならないなあ、と思っていた。

コロナになってから、外に出かけることがはばかられ、家で時間が増えたので、思い立って靴の手入れのことをインターネットで調べてみた。そこで『鏡面磨き』という言葉に出合ったのだ。動画も出ていたが、本当に鏡のように光っており、「やってみてみたい!」と思った。『鏡面磨き』にはワックスを使うとあった。ワックスはろうが主成分で、油脂が主成分の靴クリームとは別物らしく、今までピカピカにならなかったわけが初めてわかった。早速、靴屋からワックスと手入れ用の布を買ってきたが、どうもまくいかない。こうなると、どうしても成功させたくなるものだ。動画に出ていた同じメーカーのワックスを通販で買って、再挑戦。ようやく、光った。この時の感動は忘れられない。やっぱり必要なのはよい道具ということで、後は通販でいろいろそろえることになった。馬毛ブラシ、豚毛ブラシ、ワックスのリムーバー、シューツリー（靴の保管時の木型）などなど。

『鏡面磨き』の原理を簡単に説明すると、ワックスを革の表面に少しずつ塗り重ねていくことで、革の毛穴などでこぼこを埋めて下地を作り、その上に仕上げとしてさらに何層か重ねることで表面をつるつるにする、ということだそう。また、つま先とかかとは裏に補強が入っていて曲がりにくいので、ワックスを塗った後にひび割れしにくいのだそう。それで、『鏡面磨き』をするのはつま先とかかだけ、なんだとか。

未だに、やるたびに仕上がり具合が変わり、ピカピカにならないこともある。手間を惜しんで下地作りを適当に終わらせてしまうとそんな風になるようで、何事も前準備をしっかり丁寧に行うことが大事だなあ、と教訓を感じたりしている。

時間と手間はかかるが、やっている最中は無心になれるし、きれいに仕上がると達成感がある。外を歩く時には「俺の靴はピカピカだぜ」、と少し誇らしげな気持ちにもなれる。興味がある方は、ぜひとも靴磨きの沼にはまってほしい。

コロナ禍で続く引きこもり生活

岩見沢市医師会
中央医院

いとう まさみ
伊藤 正美

岩見沢市で開業して30年以上が経過した。この間、岩見沢から札幌への往復を何度もしている。主にJRとバスを利用して。しかし新型コロナ感染症の流行により札幌に出かける機会は減った。それでも札幌に出かけることが月に数回あり、自家用車で往復している。

昨年12月末に久しぶりにJRを利用した。札幌周辺が吹雪で、高速道路が止まり、札幌市内に自家用車では近づけなかった。列車はまだ動いていた。車内は空いていた。改めて、移動時間も短く、雑誌も読めるし、やはり楽だと再認識した。年初めには高速バスも利用した。さらなる吹雪・豪雪のため列車がすべて運休になり、道路のみが使えたことによる。札幌近郊・市内の道路状況が不明で自家用車では会場にたどり着けそうになかったため、仕方なく高速バスの利用を選択した。そんなにしてまで行かなければならない用事だったのかは今では思い出せない。ただ、出かけたかっただけなのかもしれない。

特急列車は換気ができないと思っていたが、15分ごとに強制換気をしていた。冬で車内は一時的に寒くなるが致し方ない。高速バスも常時換気をしている旨のアナウンスがある。各駅停車の列車も駅ごと数分ごとにドアは開くので換気の問題はないようだ。でも、感染者が同乗していた場合、通常のマスク着用ではとても大丈夫とは思えない。昔、JRを利用したときに隣で咳をしていた人に風邪を移された苦い経験がある。通勤列車やバスでのクラスター発生や濃厚接触の発表はないが本当に大丈夫なのだろうか。JRやバスは一時期、車内は空いていて食事をしている人はなくそれなりの安心感があったが、最近ではウィズコロナということで混雑してきて、食事をしている人も見かけるようになってきた。また感染が心配になってきた。

WEBで参加できる会議・講演会・講習会そして学会等も多くなり、逆に出席率は高くなった。特に学会などでは時間帯のかぶる講演もWEBでは時間をずらして聴取できるようになった。現地参加の学会が増え、出かける機会が増えると思っていた矢先にオミクロン株が流行し、再び引きこもり生活に戻ってしまった。日常生活は普通にとのことだが、再度の感染拡大が心配で出かける気がしない。医療関係者同士の交流の機会がほとんどなく、職場や関係団体の宴会はなくなりその空気感も忘れてしまった。私的にはまだしばらく自粛生活が続くそうである。